

# 令和5年度射水市社会教育委員会議

日 時 令和5年7月26日(水)

午前10時00分

場 所 市役所本庁舎401会議室

1 開 会

2 議 事

**【説明事項】**

コミュニティ・スクールの導入について

**【報告事項】**

令和4年度社会教育主要事業の現況と成果等について

3 その他

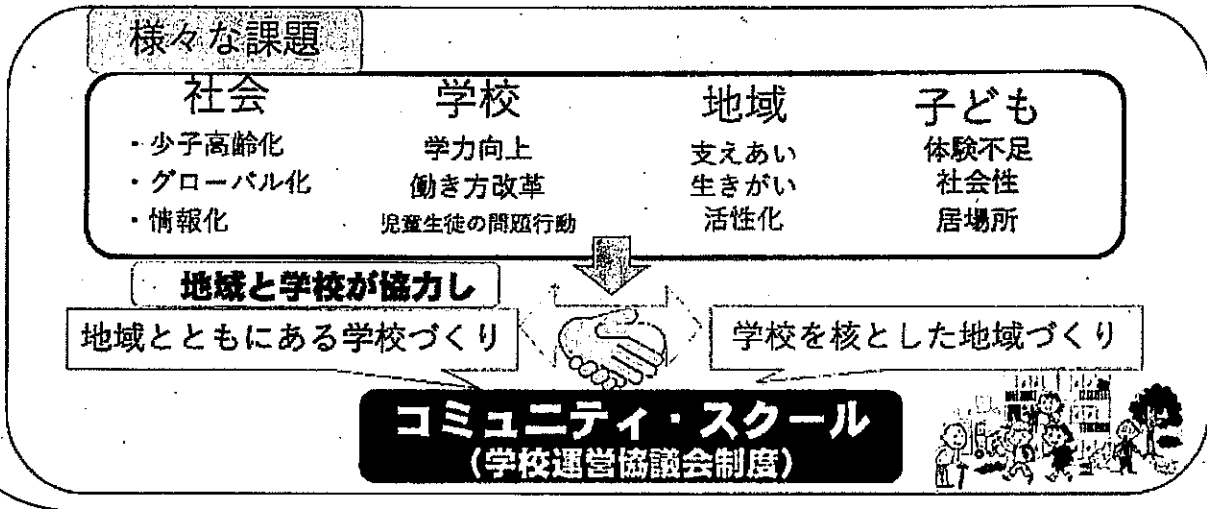
4 閉 会

# 子ども、学校、地域が輝くコミュニティ・スクール

令和5年7月

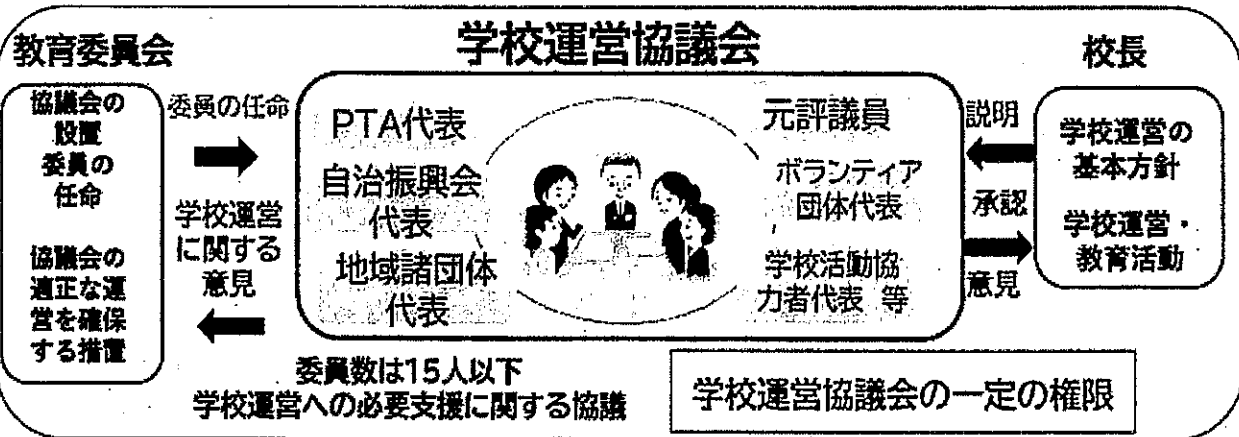
## 1 コミュニティ・スクールの導入

文部科学省では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を掲げ、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」を推進しています。



## 2 コミュニティ・スクールの仕組み

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を導入した学校のことです。保護者や地域住民の代表などが、委員となり学校運営協議会を設立します。一定の権限をもち、学校運営に必要な支援に関する協議をします。

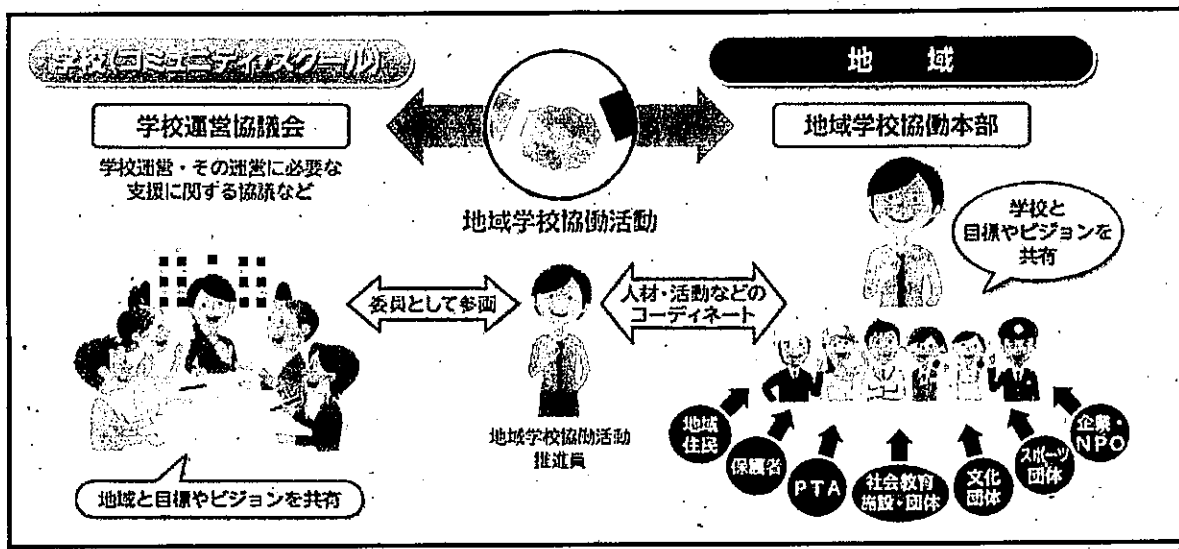


### <学校評議員会との違い>

- ・ 学校評議員会 ・ ・ 校長が学校運営に関して、保護者や地域の方々から意見を聞くことが目的。
- ・ 学校運営協議会 ・ ・ 学校教育目標達成のための手立てや、学校や地域の課題の解決について、共に協議することが目的。

### 3 地域学校協働本部との一体的な推進

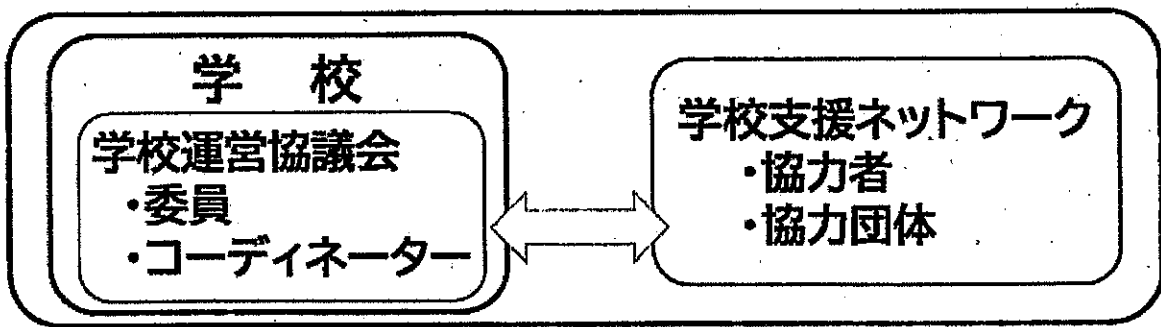
地域住民、保護者、地域団体等より、具体的な支援を行う、「地域学校協働本部」を整備します。  
 その活動を推進するために、地域の方から「地域学校協働活動推進員」をおおき、「地域学校協働活動推進員」がコーディネーターとして、活動の企画・立案、連絡・調整等を担います。  
 文部科学省では、この「地域学校協働活動推進員」が、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」をつなぎ、一体的な実施を推進しています。



### 4 射水版コミュニティ・スクール (仮称 コミスクIMIZU)

以上のことを地域の方に説明した際に「地域学校協働本部」や「地域学校協働活動推進員」等の言葉が難しくイメージしにくい等の声がありました。そこで、射水市では、  
 「地域学校協働活動推進員」 → 「コーディネーター」  
 「地域学校協働本部」 → 「学校支援ネットワーク」  
 とイメージしやすい言葉に変え、  
 「学校運営協議会」、「コーディネーター」、「学校支援ネットワーク」の3つがセットになったものを  
 「射水版コミュニティ・スクール」(仮称 コミスクIMIZU)とし、実効性のある組織を目指すこととしました。

#### <射水版コミュニティ・スクール> (イメージ)



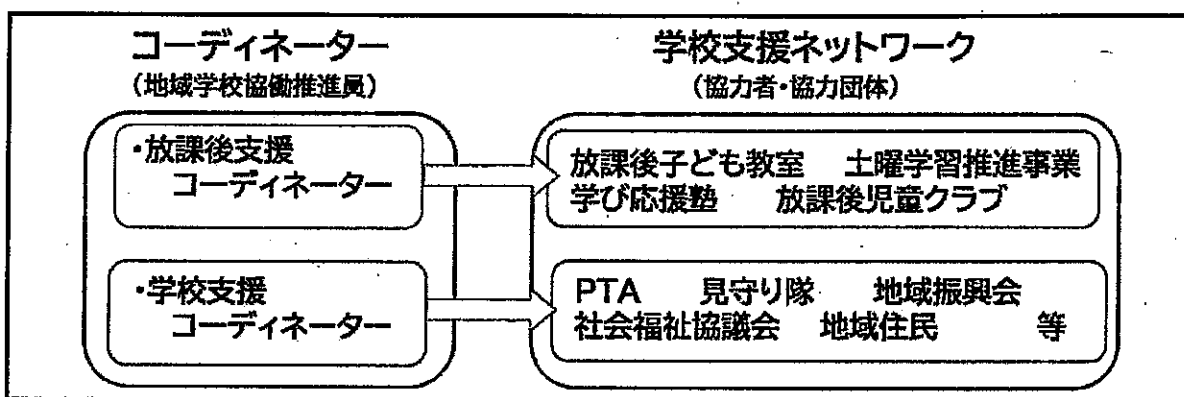
## 5 学校支援ネットワーク（地域学校協働本部）

支援活動は大きく分けると「放課後活動支援」と「学校活動支援」に分けることができます。

射水市には「放課後活動支援」に当たる「放課後子ども教室」「土曜学習推進事業」「学び応援塾」「放課後児童クラブ」の4つの事業が行われており、その事業は今後も現在のまま継続します。

4つの事業のコーディネーターの方や支援員の方は、「放課後支援コーディネーター」とし、そのまま継続します。

「学校活動支援」については、「学校支援コーディネーター」を任用します。新たに学校で支援をお願いしたい活動を地域の方に示し、支援が可能なボランティア員や団体を募集する形で進めます。



< 学校から支援をお願いした活動例 >（令和5年度中太閤山小学校）

### 学校応援ボランティア活動一覧(案)


番号	活動名	活動内容等	活動時期
1	1年 学習補助	アサガオの世話(種植え・リースづくり)の補助です。(2時間程度) 昔の遊びを一緒にします。(2時間程度)	4月~12月 主に6・11月
2	2年 学習補助	野菜づくり(土づくり・育て方)の補助です。(3~4時間) 校区の町探検等の補助です。(3~4時間)	4月~2月 主に5・11月
3	3年 学習補助	校区の町探検等の補助です。(3~4時間) スーパーマーケット見学等の学習補助です。(2時間)	4月~11月 見学は2学期
4	4年 学習補助	ハチマづくり(育て方・棚づくり)の補助です。(2~3時間)	5月~7月
5	5年 学習補助	子供たちと一緒に社会福祉施設等を訪問します。(2~3時間)	6月~11月
6	そろばん学習補助 3・4年	そろばんの学習の補助をします。(2時間)	7月・3月
7	家庭科学習補助 5・6年	家庭科の時間に子供たちに、調理実習やミシンの使い方等の補助をします。(3~4時間)	6月~11月
8	クラブ活動補助 4~6年	子供たちと一緒に活動し、補助します。(2時間程度) 料理、手芸、囲碁、将棋、オセロ、百人一首、発明工作	5月~2月
9	委員会活動補助 5・6年	環境委員会の子供たちと一緒に花壇の苗植えや花摘み、除草等を行い、補助します。(2時間程度)	4月~2月
10	ICT 活用学習補助 全学年	プログラミング学習やタブレット活用学習でのローマ字入力や発表画面作成等の補助をします。(2時間程度)	5月~2月
11	環境整備補助 全学年	教室・廊下・体育館のワックスかけ、グラウンド整備、落ち葉掃き、学期末・学年末清掃等の補助を行います。 (可能な時期に、可能な時間で)	5月~3月 注7・11・12・3月

※都合のよい時間に、できる範囲内での応援で結構です。

## 6 期待されること

コミュニティ・スクールがうまく機能すれば・・・

<b>win</b>	 助かる うれしい 楽しみ	<b>win</b>
①学校運営の基本方針の作成・改善 ②学校・地域連携のカリキュラム作成 ③生徒指導上の課題への対応 ④学校における働き方改革の推進 ⑤授業の充実 ⑥学力向上 等		①保護者・地域住民の参画による多様な取組 ②学校の現状や方針への理解が深まる ③子どもが地域で活動し地域が活性化 ④子どもの顔が分かり、声がかかりやすい。 ⑤活躍の場が増え、生きがい ⑥子どもと接することが楽しみ 等
子ども 居場所、活躍の場、成長の場、声をかけられる機会が増加 → 生きる力、社会性、居場所		
<b>win</b> 目指すは「地域の方が気軽に行ける学校」 「安心して子どもが寄り道できる地域」		



学校・地域・子ども 3者 WIN・WIN・WINへ

「地域の子は地域を育てる」を合言葉に  
 すぐには無理でも 数年後には・・・

## 7 導入のスケジュール

### <今後3年間の流れ>

**令和5年度 市内全小中学校で学校運営協議会の組織づくりを行う。**

- 5～10月 コミュニティ・スクールの説明
- 11月～ 学校評議員会を開催し、学校運営協議会の組織づくり
- 2月まで 学校運営協議会の組織編成 来年度計画
- 2月末 学校運営協議会の委員の研修会

**令和6年度 学校支援ネットワークの組織づくりを行う。  
 年3回程度の学校運営協議会を開催する。**

- 第1回 学校運営方針の説明、意見交換、承認
  - 第2回 学校の実態に応じた学校支援ネットワークについて
  - 第3回 年度の評価 次年度のコミュニティ・スクールの活動について
- 2月までに次年度に向けた学校支援ネットワークを編成

**令和7年度 学校支援ネットワークが活動開始し本格実施**

できるところから無理をせず  
 少ない負担で効果のある組織を

令和4年度社会教育主要事業の現況と成果等について

事業名	取組状況	R4成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
放課後子ども教室推進事業 土曜学習推進事業	放課後や週末に小学校の余裕教室等やコミュニティセンターを活用し、地域の多様な経験を持つ方々の協力を得て、子供たちと交流を図りながら、全44サークルの学習やスポーツ、文化活動を行っている。 (主な活動) 曳山囃子、民舞、茶道、お花、音楽、スナッグゴルフ、フラダンス、漢字、算数、英語等 ○R4年間延べ参加者数及び開催回数 放課後子ども教室：5,802人、463回 土曜学習：587人、64回	◇地域の方々や異学年との交流の場として、学校や家庭ではできないような貴重な体験となっている。 ◇新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数、参加者数が制限されたが、市芸術文化協会の協力を得て新たなサークルを開設するなど活動の充実と指導者の確保に努めた。	より多くの子供が有意義な放課後や土曜日を過ごせるように、サークル活動の内容や対象学年を見直しながら、放課後活動の充実に努める。
児童健全育成事業 【放課後児童クラブ】	労働等で昼間に保護者が不在となる家庭の小学生に対し、家庭に代わる生活の場として小学校の余裕教室等を活用し開設することで、放課後及び夏休み等の学校休業日の安全・安心な居場所を確保し、県認定資格研修を修了した支援員により適切な遊びや指導を行うとともに、保護者の子育てと仕事の両立支援を行っている。 ○22学級：登録児童数857人	◇新型コロナウイルス感染症の影響により学年閉鎖となった期間も含め年間を通して運営を継続した。 ◆児童数は減少傾向にあるが利用ニーズは高く、登録児童数は増加傾向にある。	放課後児童クラブの登録児童数増加に対応できるよう、継続して児童の居場所確保に努める。
児童健全育成事業 【とやまっ子さんさん広場】	地域振興会やNPO法人等が実施主体となり、地域の子供たちが放課後に交流できる居場所づくりとしてコミュニティセンターや公民館等を活用し開設している。 ○8か所：登録児童数461人	◇新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、地域と連携しながら開設し、引き続き児童の放課後の居場所を確保した。	放課後児童クラブで対応しきれない部分で柔軟に対応し運用していく。

事業名	取組状況	R4成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
家庭教育力向上支援事業	<p>家庭環境や子供を取り巻く環境の課題により悩みを抱える子育て中の保護者を応援するため、小中学生の児童生徒を持つ保護者や親子を対象に、富山大学地域連携推進機構と連携し「いみず親学びスクール」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識を学ぶ講義型講座（2回）</li> <li>・家庭内のコミュニケーション力向上を図るための親子体験型講座（3回）</li> </ul> <p>○R4参加者数：160人</p>	<p>◇アンケート調査では、講義型の参加者の86%以上が子育ての知識やポイント、新しい発見を得ることができたと回答した。</p> <p>◇親子体験型では、親子で一緒に過ごす時間を確保し、コミュニケーションの大切さを再確認できた。</p>	<p>引き続き、発達段階に応じた子供への関わり方の学びや、他の保護者との交流・ネットワークづくりの機会を提供していく。</p>
生涯学習活動事業	<p>身近な地域のニーズや地域の人・ものといった資源を的確に把握し、有効に活用した学習活動を展開できる市内全27地区の地域振興会に対し、生涯学習事業を委託し地域特性を生かした学習機会の提供に努めている。</p> <p>○生涯学習講座（27館）</p> <p>R4年間延べ受講者数：24,491人</p> <p>R4年間延べ開催回数：949回</p>	<p>◇コミュニティセンターにおいて、生涯学習、青少年、高齢者、女性など様々な分野の学級・講座を開設し、地域の特色を生かした生涯学習活動を促進した。</p> <p>◆身近に学びの環境があることを生かし、幅広い年代の利用について検討する必要がある。</p>	<p>各地域のニーズを把握し、さらに魅力的な事業を企画できるよう、各地区生涯学習推進委員等への情報提供や研修機会の充実に努める。</p>
二十歳のつどい事業	<p>新成人の門出を祝福するとともに、社会人として自ら生き抜くことへの自覚を促すよう激励した。</p> <p>R4年度二十歳のつどい 5月4日開催</p> <p>参加者数771人（82.7%）</p>	<p>◇感染防止対策を徹底するとともに、式典に参加できない方に対して、ライブ動画配信や動画作成により視聴できるよう配慮しながら開催した。</p>	<p>対象を当該年度に20歳になる者とし、大雪の恐れがなく集まりやすい5月の大型連休中に開催し、事業を継続する。</p>

事業名	取組状況	R4成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
文化財保存事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種文化財の調査・研究による文化財指定・登録を目指すとともに、曳山車の保存修理事業や無形民俗文化財の用具整備、天然記念物の虫害予防等を行い、適切な保存継承を図った。</li> <li>・恒久的な保存活用の為、国重要文化財「石黒信由関係資料」保存修理に取り組んだ。</li> <li>・柴屋文書、田中家文書の古文書の整理のほか、地域の歴史、民俗、文化等に関わる現地調査を行った。</li> </ul>	<p>◇地域文化財総合活用推進事業を活用した稚児舞衣装や曳山の用具新調等の保存修理事業を支援し、文化財としての価値の維持と保護意識の高揚に努めることができた。</p> <p>◇国重要文化財「石黒信由関係資料」の保存修理事業に対して助成を行い、文書記録類20点や絵図類24点、合計44点の保存修理が完了した。</p> <p>◇県天然記念物「専念寺の傘松」のマツ材線虫病予防の為、薬剤樹幹注入を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を適切に次代へ継承するため、各種文化財の調査・研究のほか、修理を必要とする文化財の保存修理事業を行う。</li> <li>・国指定文化財等の保存活用計画作成に取り組む。</li> <li>・文化財の情報を市内外へ広く発信し、市民の文化財保護意識の高揚を醸成するため、指定文化財等のデジタル化や刊行物の発刊に努める。</li> </ul>
埋蔵文化財調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究と保存活用の更なる充実に資するため、埋蔵文化財センターを開館し、発掘調査で見つかった遺物や調査成果を公開した。</li> <li>・沖塚原東B遺跡から出土した「国内初！漢詩墨書のある網代団扇」を新湊博物館において初公開した。県内外から370人の来館があり、埋蔵文化財の普及啓発に効果があった。</li> <li>・『射水市内遺跡発掘調査報告15』を刊行。</li> </ul>	<p>◇埋蔵文化財の保存活用・公開展示の拠点として埋蔵文化財センターを開館し、勾玉、鏡、懸仏づくりの体験教室や市内小学生対象のまいぶんチャレンジデー・こども学芸員講座などを開催した。</p> <p>◇各種開発に先立ち、開発予定地に所在する埋蔵文化財の試掘確認調査を実施し、保護と事業計画との調整を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作道、荒町・宮新田、大島地区、下地区などの県営ほ場整備事業に係る大規模調査が長期的に継続する。</li> </ul> <p>【R4実績】</p> <p>試掘調査21件・分布調査1件・工事立会15件</p>
国重要無形民俗文化財「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「放生津八幡宮祭の曳山・築山行事」保存活用計画の作成のため、文化財保護団体内に計画作成部会を設置し計画事務を支援するとともに、修理要望箇所の調査を進めた。</li> <li>・国指定記念事業の実施に際し、補助金を交付するとともに、講師の斡旋など支援した。</li> </ul>	<p>◇国指定記念事業の支援を通して、文化財保護団体の意欲向上と市民への周知を図った。保存活用計画作成の会議を3回開会し、課題の洗い出しと認識共有を図った。</p> <p>◆担い手が減少するなか、曳山・築山行事を保存継承するためには、文化財保護団体だけでは限界があり、地域社会全体で保存継承を図る体制の整備が必要となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保存活用に関する基本的な方針と具体的・計画的な取組を定め、文化庁長官による認定と公開等を通じて、文化財保護団体の主体的な取組と保存継承に対する市民の理解と支援の強化を図る。</li> </ul>



事業名	取組状況	R4成果 (◇) / 課題 (◆)	今後の取組
スポーツひのまるキッズ北信越小学生柔道大会開催事業	有名指導者・選手による高い技術や人柄に触れる機会となる「第13回スポーツひのまるキッズ北信越小学生柔道大会」の開催を支援した。	◇親子の絆を深めながら、児童の交流や競技技術の向上が図られた。	引き続き、トップアスリートとふれあえる大会の誘致・開催支援に取り組む。
富山マラソン開催事業	富山マラソン2022が多くのボランティアの協力のもと開催された。沿道では新湊曳山の展示や獅子舞などで大会を盛り上げたほか、開通10周年を迎えた新湊大橋を折り返し地点とするジョギングの部には、1,000人を超えるランナーが参加した。	◇新湊大橋から望む美しい富山湾や立山連峰の雄大な眺望など、本市の魅力を市内外にPRすることができた。	引き続き、富山マラソン（ジョギングの部）を開催する。
スポーツ強化育成事業	国際大会や全国大会に出場する選手・監督への激励金並びに成績優秀者への褒賞金を交付した。	◇市スポーツ大会出場激励金交付件数 団体2団体、個人275人 ◇褒賞金交付件数 個人1人	選手が全国大会等で活躍できるよう、選手力向上につながる取組を支援する。
幼児の体力向上支援事業	市内保育園・幼稚園・こども園に指導者を派遣し、幼児に多様な運動遊びを経験させることで運動する楽しさや喜びを実感させるとともに、様々な体の動かし方の習得や体力向上を図った。	◇実施日数：33日、実施園数：17園	多様な運動遊びを経験する機会を提供することで、幼児の体力向上が図られることから今後も継続して支援を行う。
フットボールセンター管理運営事業	オリバースポーツフィールド射水（射水市フットボールセンター）については、スポーツを通じた賑わい創出の拠点として令和4年4月29日にオープンした。	◇利用者数 66,814人 近隣高校等の練習に加え、著名なサッカー選手が監修するスクールが開校し競技力向上が図られた。また、児童を対象とした多様なスポーツ体験できるイベント「オリスポフェス」を開催し、賑わい創出に努めた。	スポーツの振興に加え、スポーツを通じた交流人口の拡大を図るため、大規模な大会や合宿の誘致に取り組む。